



◆生育状況

本年の発芽は昨年比4日早く、平年比9日早い。

今後の気象に注意して遅れないように適期に管理・防除作業を行う。

瀬原田・真島のふじ

	R5年	R4年	R3年	R2	H31	H30
発芽	3/22	3/26	3/22	3/21	3/26	3/26
展葉	3/31	4/6	3/31	4/7	4/12	4/1
開花始		4/21	4/18	4/27	4/26	4/19
満開		4/24	4/24	5/2	4/30	4/22
落花		4/28	4/26	5/6	5/3	4/28

果樹試験場の生育状況

ふじ 平年の発芽3月30日 今年の発芽3月23日 昨年より8日早い 平年より7日早い

つがる 平年の発芽3月30日 今年の発芽3月22日 昨年より8日早い 平年より8日早い

M.9 平年の展葉4月9日 今年の展葉3月24日 昨年より14日早い 平年より16日早い

◆当面する重点事項

1. 春季干ばつ対応 晴天が続き乾いている場合は、定期的なかん水により開花・結実を助ける。
2. コンフューザーRまたはナシヒメコンを適期に設置する。
スモヒメシンクイは4月中下旬から活動を開始するので、設置が遅れないようにする。
3. 第3回目（開花直前）・第4回目（落花直後）の薬剤散布を適期に実施する。
4. 人工受粉を励行し、結実を安定させる。共同開葯所を積極的に利活用する。
5. 凍霜害防止対策を万全に取り組む。急に寒気が来る場合があるので注意する。
6. 腐らん病の早期発見、早期治療に努める。枝腐らんは葉が茂る前が見つけやすい。
7. うどんこ病は、見つけしだい先刈りを行うことが最も重要。（枝は多めに切除）
8. 薬剤による摘花・摘果を実施し、摘果作業の早期化、省力化を図る。
9. 腋芽花（2年枝）の花摘みを徹底励行して来年の花芽を確保し、連年均産に努める。
10. 秋映は一輪摘花（果）を行い、サビ果防止に努める。
11. 落花後に受粉樹（メイポールなど）のせん定を行う。

◆第3回（開花直前）の薬剤散布について

散布日 月 日

1. 散布適期 …… ふじの開花始めに散布する。（1～2輪咲いた頃）
2. 調合量 水1000 当り

展着剤	10ml	
ロムダンフロアブル	33ml	ハマキムシ・ケムシ類
ユニックス顆粒水和剤47	50g	黒星病（耐性菌対策）・うどんこ病

3. 散布量 …… 10a 当り⇒400ℓ 以上

4. 散布上の留意事項

①ロムダンフロアブル3,000倍（水1000 当り33 ml）に代えてカスケード乳剤2,000倍（水

100ℓ 当り 50 ml) を使用しても良い。

- ②ミツバチ、マメコバチが活動しているので、カスケード乳剤・ロムダンフロアブル・ウララDF・バイオマックスDF以外の殺虫剤は使用しない。
- ③ユニックス顆粒水和剤47に代えてミギワ20フロアブル4,000倍(水100ℓ当り25ml)を使用してもよい。
- ④黒星病対策として、第3回と第4回の防除間隔は10日間とし平年よりも短くし開花中でも散布を行う。降雨があると胞子が飛散し濡れ時間が長いと感染しやすくなる。黒星病は平均気温が10度を超え、一旦気温が低下し、再度10度を超えた降雨の日に胞子が飛散するといわれている。

◆第4回(落花直後(中心花))の散布について 散布日 _____ 月 _____ 日

1. 散布適期 …… 開花中であっても、前回10日後以内を厳守して散布する。

2. 調合量 水100ℓ 当り

[展 着 剤 ……………	10ml
[㊸カナメフロアブル ……………	25ml (黒星病・うどんこ病・赤星病)

3. 散布量 ……10a当り⇒350ℓ 以上

4. 散布上の留意事項

- ①マメコバチ・ミツバチ等訪花昆虫保護のため、今回は殺虫剤を加用しない。
- ②適期を守り散布量を増やして中心花の付け根(果実が肥大する所)によく掛かるよう散布する。
- ③アブラムシの発生が心配される場合は、ウララDF4,000倍(水100ℓ 当り25g)を加用してもよい(訪花昆虫に影響なし)
- ④赤星病の発生の心配がない場合は㊸カナメフロアブルに代えて、在庫があればオルフィンフロアブル4,000倍(水100ℓ当り25ml)を使用しても良い。ただし使用期限が近い(令和5年10月で販売停止、令和6年10月で登録が切れる)ので早めに使い切るようにする。
- ⑤ハマキムシ・ケムシ類(マイマイガ)の発生が多い場合はバイオマックスDF3,000倍(水100ℓ 当り33g)を加用散布する。

開花が早い中心花の花弁が、たとくと1~2枚落ちる頃。花弁が多く落ちる頃では遅い。

◆薬剤による摘花摘果技術

1. 石灰硫黄合剤による摘花方法

散布日 _____ 月 _____ 日 散布日 _____ 月 _____ 日

※石灰硫黄合剤 100倍液(高温時 120倍液)

- ①散布時期…中心花の満開2日後と、その散布の2日~3日後の2回散布する。
「受精結実」= 受精は花粉が柱頭についてから48時間で60%、72時間で70%以上完了するが、気温の影響も大きい(低温時は長くかかる)。※人工受粉すれば2日でよい。
- ②散布量…10a当り300~400ℓ。
- ③散布方法…蕾を含め花そう全体に充分かける。SSは風圧を下げてフンワリ散布する。
- ④使用上の留意点
 - 温暖無風な日中(午前9時以降~3時)に散布する。(気温15度を超えた時) 早朝や低温時など、樹体温が低く薬剤が乾きにくい状態での散布は避ける。
 - ※散布5日前以内に霜があり、花が痛んでいるときは散布を中止する。
 - 展着剤は不要。倍率は100倍より濃い濃度にならないように注意。
 - 極端に弱い樹や極端に枝が混んだ乾きにくい園はサビが出ることもあり注意する。
 - スピードスプレー散布は風量を落とし、花弁が柱頭を包まないように配慮する。

◆ミクロデナポン水和剤85による摘果(生理落果)方法 散布日 月 日

果実の生育差が大きい・着果数が少ない場合は効果が低下しやすい。

※摘果剤 ⇒ ㊸ミクロデナポン水和剤85・・・1,200倍(水100ℓ当り83g)

※補助剤 ⇒ アプローチB I・・・・・・・・ 500倍(水100ℓ当り200ml) を加用する。

1. 散布時期(ふじ)残す果実の横径10^{mm}未満(8~9^{mm})で散布する。

①シナノスイート(成木)・シナノゴールド(成木) = 満開後2週間~3週間

早い時期のほうが落果効果が高い。

②紅玉 = 満開後2週間~3週間(紅玉 果実の横径18~20^{mm}の頃)

展着剤は普通濃度使用又は使用しない。

2. 散布量・・・10a当り400~500ℓ 十分な量を散布しないと効果が出ない。

3. 使用上の留意点

①「つがる」「秋映」「祝」は過剰摘果の危険があるので注意する。

②乾燥状態では効果が低いので、乾燥しているようならば散布前に灌水を実施。

③結実が悪い園・樹は散布しない。

◆試行技術 「アミノベスト」について

ふじではアプローチB Iに代えてアミノベスト1,000倍(水100ℓ当り100ml)を使用してもよい。

落果しにくいシナノスイート・シナノゴールドはミクロデナポン+アプローチB I+アミノベスト1,000倍で使用してもよい。

アミノベストは浸透力に加え葉面散布剤としての効果があり生育促進にもなる。

店舗では置いていないので取り寄せとなる。

青森では一般的、県内での使用も広まっている。詳しくは果樹技術員までご相談ください。

◆草生園・成り疲れによる衰弱園の生育初期樹勢維持葉面散布について

1. 使用する葉面散布用液肥 以前配布した別紙参照

2. 凍霜害にあった場合は、傷グチが回復するまで葉面散布を控える。

ただし殺菌剤の散布は必要となる。

◆早生・中生種への施肥について(新しい化栽培を除く)

1) 施肥時期・・・4月下旬まで

2) 資材名と施肥量・・・・有機専科 2袋/10a

3) 注意事項 ①玉伸びに効果のある施肥時期となる。

②有機専科に代えてノルチッソ1袋でも良い。

なお水に溶けやすいので雨の前には施用しない。

③植え付け3~4年目頃より施肥を開始する。

◆新しい化栽培の管理について

摘花 本植えた1年生の樹から成木まで、出来るだけ早く摘花摘果を行う。

1年生の樹は、なり癖をつけるために1輪摘花(果)を行い、新梢の伸びが停まったら全摘果する。

2年目からは年なり防止と玉肥大の為に早めの1輪摘花(果)を行う。

新梢の伸びが良いところは2年枝へも着果させ、新梢の伸びを抑える。

誘引 フェザー(特に太い下枝)が水平または斜め下向きある場合は、先端が下向きになるように誘引し、新梢の伸びを抑える。

固定 主幹をしっかりと支柱で固定し、折れないように曲がらないようにする。

根切り 花が咲かなかった場合は樹勢が強くなるので、根切りを実施する。

詳しくは果樹技術員まで

かん水と除草 春は乾燥しやすい。特に3年生ぐらいまでは管理を徹底する。

◆長野県オリジナル品種の摘花のポイントについて

- (1) どの品種も中心花を残したい。
- (2) 秋映は、一輪摘花を行う。サビ果防止と霜害に強くなる（育成者 小田切氏談）。
- (3) シナノスイートは、弱樹勢樹では、えき芽花の摘花を必ず行う。弱らすと回復しない。
- (4) シナノゴールドは、開花期が長いので、遅く咲く花は摘花し、小玉・未熟果を減らす。
- (5) シナノドルチェは、年成りしやすいので早めに摘花を行う。
- (6) シナノリップは、開花期が長い。遅く咲く花は熟期が遅れるので摘花する。

◆人工受粉は何を重点に行うか・花粉の取り扱いが肝心

人工受粉を行わないりんごは変形果率が高く贈答用に向かない。「高く売れるりんご」作りを徹底したい。

1. 留意点

- ①保管 高温・多湿・直射日光に極めて弱い。乾燥した日陰で保管。
雨降り日に常温状態におくと2～3日で発芽率30%以下になる。
- ②条件 朝夕寒い場合や、極端に暑い場合は行わない。
- ③開花後3日は受精能力が高い。
- ④綿棒1回の花粉づけで50～60花できる。
- ⑤綿棒は数本用意し、ベタついたら交換して中性洗剤でよく洗い、乾かしてから再度使用する。
- ⑥日光があたらないように広口ビンに銀紙を巻き、余った（湿った）花粉は元の袋に戻さない。
- ⑦花芽の状態が悪い園は2度～3度実施したい。

2. 品種の結実率

◎90%以上 ○60%以上 △30%以上 ☆交雑和合性あり

♀ 交配品種	♂ 受粉樹 品種	祝	つがる	紅玉	ふじ	王林	陽光	秋映	シナノ ゴールド	メイ ポール	M9
シナノリップ			☆	☆	☆	☆		×	×	☆	☆
つがる		◎	×	◎	○	○	○	☆	☆	☆	☆
紅玉		○	○	×	○	○	◎	☆	☆	☆	☆
ふじ		○	◎	○	×	◎	○	☆	☆	☆	☆
秋映		☆	☆	☆	☆	☆	☆	×	×	☆	×
シナノスイート		☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆	☆
シナノゴールド		☆	☆	☆	☆	☆	☆	×	×	☆	×

《栽培に関する問合せ》果樹総合情報をご覧ください

《販売に関する問合せ》各流通センター・共選所／営農販売部(本所):292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部／農業資材課:299-3311